

第3学年社会科「火事から命を守る人々の働き ～思いと行動が安全をつくる～」

学習指導者 網野 未来

昨年24件の火事があったのに、死者が0人だったことに驚きを抱いた子供たちは、その理由について予想を整理し、「火事から命を守るための道具や設備、人の働きを調べよう」という単元の目標を設定しました。そして、学校や家庭にある消防設備の特徴や目的、消防署や消防団の人々の働きを調べ、火事から命を守るために自分たちにできることを考えていきました。

女性分団があることのよさは何だろう

【見通し】

前時を振り返り、消防団と消防署の違いについて分かったことを確認しました。そして、各々の地域に分団があるにもかかわらず、それとは別にどの地域にも属さない女性分団があることも疑問に思っていたことを想起しました。火事から命を守る人々の分布をまとめた地図を使いながら、女性分団のよさは何か知りたいということ共有し、本時の課題を設定しました。その後、消防署や他の分団の人、市民という立場に立って考えていけばよいことを共有しました。



【行動】

既習事項を基に根拠をはっきりとさせ、選んだ立場が同じ友達と関わるなどしながら、各々の立場にとってのよさを考えていきました。その後全体で、消防署や他の分団の人にとっては、市の安全のために活動する仲間が増えることを、市民にとっては、女性分団の活動が、市民の防火、防災意識を高めることを共有しました。話し合ったことは、女性分団の方の話の映像を使って検証し、消防団の強化や、女性分団の活動を市民に喜んでもらっていることに気付くことができました。



【振り返り】

各自で分かったことをまとめた後、女性分団があることで、火事から命を守ろうという市民の意識が高くなること、より強い消防団をつくることにつながることを確認しました。また、自分の学び方（資料を見ること、友達と話すことなど）の何がよかったから、課題についての答えが見付かったのか学習過程について振り返りました。



成果と課題

○三つの立場を示し、女性分団があることのよさを考えるようにしたことで、考えやすい立場を選択し、自分なりの考えを記述できていた。また既習事項をまとめた補助黒板や手持ちの資料があったので、考えの根拠がもちやすくなっていた。
▲見通し場面で女性分団が本当に必要なのか揺さぶったり、どうして女性だけで活動をするのか問いかけてたりした上で女性分団があることのよさを考えていく方が、子供がより強い課題意識をもって、課題解決に取り組めたのではないかな。